

絆

出合いに、絆に、感謝をしながら 児童文学とともに歩む日々

東京霊園に眠る大切な恩師

私は児童文学の翻訳・創作を手掛けていたのですが、今その歩んできた道を振り返ってみますと、この大好きな仕事を続けていられるきっかけを作ってくれた、二つの大切なご縁・絆が思い浮かびます。

その一つは、昨年(2015年)にお亡くなりになった大学時代の恩師、伊東克己先生との絆です。私が学生だったころ、先生は「The Waseda Guardian」という英字新聞部の顧問をされていて、私はその部員でした。先生の指導は決して甘くなく、私もご自宅に伺ってよく叱られたり、何度も原稿を直されたりしたのですが、中には、その厳しさから泣き出してしまふ学生もいたほどでした。しかし、そんなときにはお寿司をとって気持ちを和らげてくださったり、帰りが遅くなった学生を一人一人車で送ってくださったりと、とてもやさしい先生だったのです。ここで鍛えていただいた英語が私の基礎となり、今も仕事に役立っています。



ご実家のお墓の前で

同人誌会です。活躍されていた、私にとってかけがえのない多くの先輩や仲間たちとの絆です。

作家の山下明生さん、翻訳家の掛川恭子さんをはじめ、先輩方はとても素敵な方ばかりで、児童文学に対する知識や経験が浅い私にも、それは親身になって接してくださいました。この会での貴重な経験が、今の私の根っことなっていて、これは間違いありません。その中でも、特に乙骨淑子(おっこつ よしこ)さんという先輩、そして乙骨さんが生み出す作品との出合いは、私に大きな影響を与えてくれました。

乙骨さんは病気のため51歳の若さで生涯を閉じられ、残された本はわずか7冊のみ。でもその一冊一冊が、すべて魅力的な本ばかりです。テーマの着眼点、ストーリー展開の面白さもさることながら、子

私は卒業後、本を出すようになってからは、出来上がると欠かさず先生にお送りしていました。すると、先生は必ずご感想を返してください、それは嬉しく、心強く思ったものです。先生がお亡くなりになられてから奥様に伺ったのですが、先生はまずお子様にその本を読ませていらつしやう、後にお子様が大きくなると、今度はお孫様に読ませてくださっていたそうです。こうしてまさに読者目線のご意見をくみ取って、私にお手紙をくださったのでした。学生時代から幾年にもわたり続いた先生との絆に、今も感謝の気持ち絶えることはありません。

私の実家のお墓は、ここ東京霊園にあるのですが、注がれるまなざし、描写の素晴らしさには本当に感銘を受けました。乙骨さんと親しく過ごした日々は、私の中の宝物の一つです。



児童文学が広げてくれる大切な絆

児童文学には時代を超えて愛し続けていただける本がたくさんあります。その理由は、例えば若者言葉のような賞味期間の短い言葉を使うことが少なく、逆にオーソドックスな表現を用いることが多いことなどが挙げられるでしょう。私の作品でも、40年ほど前に書いた絵本たちが、今でもハードカバーとして書店に並び、読み継いでいただいています。

また、私は翻訳・創作を続ける一方、セミナーで翻訳家をめざす方々の指導も行っています。生徒さんは20代から40代の女性が多いのですが、家事との両立をめぐざされている主婦の方や、中には定年退職を機に新しい道を志された男性の方

ります。そして不思議な偶然なのですが、伊東先生もこちらにお眠りになっています。東京霊園に実家のお墓参りに来たときには、先生にもお会いできる。これは、私にとって小さな幸せでもあります。



手掛けられた作品たち

先輩方と過ごしたかけがえのない時間

大学を卒業してから出版社に勤め始めると、その同期に童話が好きな友人がいました。話を聞いてみるととても興味が出てきて「こだま児童文学会」という同人誌会に入ったのですが、これが、私と児童文学の出合いとなりました。実はこの同人誌会に入るまで、私自身、児童文学を志すようになるとは考えてもいませんでした。しかし、後にこれが生涯の仕事となったわけですから、同人誌会に入会したことは人生最大の転機だったと言えるかもしれません。さらに、ここで二つめの大切なご縁が生まれるのですが、それは、



セミナーで後進の指導をするこだまさん

もいらつしやいます。

こうした、目に見えない多くの子どもたち・読者の方々との出合い。そして、希望に満ちた後進の方々との出合いなど、児童文学はいつも私に素敵なご縁を与え続けてくれます。こうして見ますと、私と児童文学との絆こそが、さらに大切な絆を駆け、紡ぎ続けてくれていたことにあらためて気付かされます。

仕事は、やはり私の一番の楽しみ。これからも、児童文学との絆、そしてそこから結ばれるさまざまなご縁を大切に、大好きなこの道を歩んでいこうと思っています。



こだま ともこさん

児童文学翻訳家・作家。東京都在住。現代絵本の巨匠であるモーリス・センダックの作品や、TVドラマでも有名な「大草原の小さな家」シリーズなど、100を超える作品を翻訳・出版。創作作品に「三じのおちやにきてください」ほかがある。

園内探訪

奥様への思いを胸に



はつらつとした声でお話しになる川島さん

東京霊園とのご縁について、「父がまだ元氣だったところに、自然に囲まれた静かな環境や陽射しの明るさ、心地よい風通しなどを気に入り、自ら決めたものと聞いています」とお話しくださる川島通夫さん。当園には、東屋の建つ芝生スペースへ面した区画に、お父様のお兄様、妹様のお墓もそれぞれ在り、お父様はその並びを選んで墓所をおもとめになりました。

今そのお墓には、平成14年4月に他界された最愛の奥様もお眠りになっていきますが、川島さんは納骨以来、月命日のお墓参りを欠かしたことがなく、この平成28年4月で何と168回を数えるそうです。

「妻は、若いころにはバスケットボールに打ち込んでいたほど活発な女性で、結婚後 41年間も無病息災。明るく元氣な姿でいつも私の隣にいてくれました」

た。しかし、65歳のときに初めて体調不良になり検査を受けると、わずかその3カ月後に他界してしまいました。私がつと早く妻の変調に気付いてあげられていたらと、今でも夫として責任のようなものを感じています」

こうした奥様への思いと感謝の気持ちから、身体の動く限りお墓参りを続けたいと話される川島さんの御年は、今年で81歳。しかし、お身体がお元氣なのはもちろんのこと、お話しもとても明朗快活で、ご年齢を感じさせません。その秘訣を伺うと、毎日のお食事にも小さな工夫があるようです。

「妻が亡くなってからは一人暮らしを続けていますので、食事はほとんどお店のテイクアウトなのですが、お味噌汁だけは毎日必ず手作りをしています。またお惣菜もできるだけ身体に良さそうなものを選び、いろいろな食材をまんべんなく摂るようにしていますね。昔、買ってきたものばかり食べていると身体を壊すぞ」と兄に言われたのですが、今ではその兄より長生きしています」と、微笑まれながらお答えくださいました。

川島さんは素敵なご趣味もお持ちで、会社を定年退職後に約10年をかけ、ヨーロッパを中心に海外30数カ国を回られたそうです。また、中学3年生から会社の管理職に就かれた40歳ごろまで、コーラス部で活躍をされていたとのこと。今ではご自分で歌うことこそ控えていらっしゃるようですが、テレビでも人気を博すコーラスグループのコンサートをお

楽しみにされており、お住まいである東京近郊を中心にほぼ毎月のように足を運ばれているそうです。こうしたお好きなものに向けるお気持ちや行動力も、お元氣の源となっているのではないのでしょうか。

お話の締めくくりに、「法事ときには菩提寺の住職にお墓へおいでいただくのですが、東京霊園の設備や心配り、美しく整備された環境を、他にはないととても褒めてくださいます。これは私もとても嬉しく思っています。これは私もしっかりと喜んでくれているのではないかと思います」とありがたいお言葉をくださった川島さん。お墓参りにはよくご長女の寛子さんが寄り添われていらつしゃいますが、親子で歩まれる霊園の道と同じように、これからの人生も笑顔で歩まれることをお祈りしております。



ご長女の寛子さんと仲良く月命日のお墓参り

サツマイモが育つ土地

【連載エッセイ】

エッセイスト・画家 農園主・ワイナリーオーナーなどさまざまな肩書きを持つ玉村豊男氏によるエッセイ。料理、食文化、田舎暮らし、ライフスタイルなど幅広い分野を玉村氏独自の切り口で展開するエッセイをお楽しみください。

試みにサツマイモを植えてみたことがある。

薩摩では唐イモとか琉球イモと呼んでいたイモが、本州に伝わって薩摩イモと呼ばれるようになった。中国大陸から沖縄を経て鹿児島に上陸し、それから本州を北上した、伝播の経路がわ



紫イモ

かる命名である。日本のサツマイモの生産量はいまでも鹿児島県が圧倒的に多く、茨城、千葉、宮崎、徳島がこれに次ぐという。いずれにしても温暖な地域の作物で、信州の高原で栽培してみようという酔狂な者は少ないだろう。

植えたのは、紅イモという中まで赤い品種である。春に植えた種イモは順調に成育し、夏になると赤い芽と茎がどんどん伸びて、元氣のよい濃い緑色の葉の数が増えていく。その姿があまりにも美しいので私は絵に描くことにし、秋の終わり頃になって首尾よくイモができたなら、そのイモと枯れた葉を描き加えて絵を完成させようと考えた。

温度が足りないせいか、十分に生育するにはかなりの時間がかかったが、それでも立派なイモができた。聞くと近所でも自家用につくっている人がいるようで、サツマイモは寒冷地でも平気で育つことがわかった。

ジャガイモとサツマイモ。ともに南米大陸から世界各地に伝わり、多くの人がびとを飢饉から救ってきた作物であ

る。どんな土地に植えてもその逞しい生命力を見せつけるのはさすがだと感心した。

ジャガイモはヨーロッパの繁栄を支えた作物で、日本でもサツマイモの3倍ほど多く栽培されているが、北海道の生産量トップは動かないものの、2位と3位は長崎と鹿児島が占めている。それなら……サツマイモだって、東北や北海道で生産されても不思議はないだろう。地球温暖化が現実となってきた今ならなおさらだ。

大きな地震や、火山の噴火など、自然災害で多くの人が被害を受けている。私たちは、その報道に心を痛めながら、いつ自分の身に同じようなことが起こっても不思議ではないと、他人事ではない思いを抱いている。

また、サツマイモを植えてみようか。イモ畑さえあれば、それでなんとかなったとき、美しい緑色の葉を見て絵に描こうと思うくらい、心の余裕は持っていたいものだ。

玉村 豊男 (たまむら・とよお)



エッセイスト。1945年、日本画家・玉村方久斗(はくと)の末子として東京に生まれる。東大仏文科を卒業後、パリへ留学。その後、通訳、翻訳業を経て執筆活動に入る。1983年、軽井沢に転居した後、長野県東部町(現・東御市)に土地を求め、農園「ヴィラデスト」を開く。著書は『草刈る人』(新潮社)、『絵を描く日常』(東京書籍)、『今日よりよい明日はない』(千曲川ワインバレー)(集英社新書)

根小屋地区 城の城下町にあたる地区

1 宗関寺 そうかんじ 平安時代に華嚴菩薩が開いた寺を、氏照が永祿7年(1564)に再興した寺が前身といわれています。北条氏照百回忌法要の際に中山信治が寄進した宗関寺銅造梵鐘は、市指定文化財となっています。



2 北条氏照および家臣墓



氏照の百回忌を機に中山信治によって建てられたものです。氏照は小田原城下で切腹し、現在は小田原駅近くにも墓が残っています。

4 大手門跡



現在は埋め戻されていますが、昭和63年の調査で門の礎石や敷石が見つかりました。城の表門にあたり、このあたりが八王子城の正面口であったと考えられます。

居館地区 城主氏照の館があり生活の中心となっていた地区

5 古道

古道は戦国時代に御主殿へ入る道として使われてきました。当時は、城山川下流方面へさらに続いていたと考えられます。対岸の道は江戸時代に作られた林道です。



6 御主殿の滝

落城時に御主殿にいた北条方の武将や婦女子らが、滝の上流で自刃して次々に身を投じ、その血で城山川の水は三日三晩赤く染まったと伝えられます。



7 曳橋

整備された御主殿跡へ入るための通路として、城山川にかけた橋です。当時はこの位置に簡単な木橋をかけ、その橋を壊すことで敵の侵入を防いだと考えられます。



8 御主殿跡

氏照の館などがあったとされます。発掘調査の結果、建物の礎石や水路跡、多数の遺物が出土しました。現在、礎石などの位置がわかるように復元的整備を行っています。



9 虎口

曲輪の出入口のことを虎口といいます。石垣や石畳はなるべく当時のものをそのまま利用し、できるだけ忠実に復元しました。御主殿入口の門は、冠木門といわれ、当時の門をイメージして建てられました。



要害地区 戦闘時に要塞となる地区

10 金子曲輪

金子三郎右衛門家重が守備したといわれ、根根をひな壇状に造り、敵の侵入を防ぐ工夫がなされています。



11 小宮曲輪

狩野一庵が守備したといわれています。豊臣秀吉による八王子城攻めの際に、上杉軍に攻められ、ここの陥落が引き金となり、山頂の曲輪が次々と破られました。



12 八王子神社

氏照が八王子城築城にあたり、城の守護神とした「八王子権現」が祀られている神社です。



13 本丸跡

城の中心で、最も重要な曲輪。平地があまり広くないので天守閣などの大きな建物はなかったと考えられます。横地監物吉信が守備したといわれています。



14 松木曲輪

中山勘解由家範らがこの辺りを守備していたといわれています。八王子城攻めの際に奮闘しましたが、多勢に無勢で防ぎきることができませんでした。



日本100名城・国史跡 八王子城跡

八王子城は、小田原に本拠をおいた後北条氏三代目氏康の三男、北条氏照(?~1590)が築いた山城です。天正10年(1582)ころに築城が開始され、天正15年(1587)ころまでに滝山城(八王子市丹木町)から拠点を移したとされます。豊臣秀吉の関東制圧の一環で、天正18年(1590)6月23日、前田利家・上杉景勝軍に攻められて落城しました。この八王子城落城が決め手となって、本拠の小田原城は開城。氏照はこのとき小田原に籠城中で、兄の氏政と共に城下で切腹し、北条氏は滅亡しました。

八王子城は関東屈指の山城です。氏照が構想していた城郭は壮大で、落城時は未完成であったと考えられています。さまざまな動植物が生息し、四季折々の自然が満喫できる八王子城跡に、当園にお立ち寄りの際、足を伸ばしてみたいかがでしょう。その際は動きやすい靴と服装で散策してみてください。



見学案内

- 利用時間：◆管理棟 8:30~17:00
◆ガイダンス施設 9:00~17:00
TEL: 042-663-2800

基本年中無休ですが、年末年始(12/29~1/3)およびガイダンス施設の臨時休館日は利用できませんので、ご見学の際はお問い合わせください。

- 見学料：無料

3 ガイダンス施設

八王子城跡見学の拠点として、八王子城と、城主の北条氏照についてわかりやすく学べる施設です。トイレが利用できます。



アクセス

● 電車・バスをご利用の場合

JR中央線・京王線「高尾駅北口」1番バス乗り場から乗車。(5~7分間隔)「霊園前・八王子城跡入口」下車、管理棟まで徒歩約20分。

● 高尾駅北口~八王子城跡時刻表 (H28.8.1現在)

*土・日・祝日のみ「八王子城跡」行きバスがご利用になれます。

	高尾駅北口発	八王子城跡発		高尾駅北口発	八王子城跡発
7	15 55	30	13	02	20
8	35	10 50	14	02	20
9	15	30	15	02	20
10	02	20	16	02	20
11	02	20	17	02	20
12	02	20			

● お車ご利用の場合

圏央道八王子西ICから高尾方面へ約10分。または、圏央道高尾山ICから、甲州街道を経由して約10分。
*ガイダンス施設の無料駐車場があります。(普通車50台)

園内花木マップ

自然と融合した当霊園をご紹介します。



夏
秋

ご法事のご案内

ご法事に関わるすべてを
まごころ込めてお手伝いさせていただきます

- ◆事前のご予約が必要です ◆ご予約は、ご法要日の6カ月前から承ります
- ◆読経、墓前で使用する焼香台、卒塔婆、供花、引物のご用命を承ります
- *お彼岸・お盆・行楽シーズンは交通渋滞が予想されますので、お車の方はゆとりをもってお出かけください

● 法 要

格調高い荘厳なお堂で、宗旨・宗派を問わず執り行えます
仏教の場合は各宗派の僧侶、神道の場合は神職のお手配もいたします



*仏式祭壇



*神式祭壇



*キリスト教式祭壇

高尾院本堂(仏式のみ25名様まで)



法要料金のご案内

■ お布施と祭祀料 (非課税)

(1) 仏式の場合(お布施) ※お車代含む

お堂または墓前で読経を行う場合	35,000円より
お堂と墓前で読経を行う場合	45,000円より

(2) 神式の場合(祭祀料) ※お車代含む

お堂または墓前で祭祀を行う場合	50,000円より
お堂と墓前で祭祀を行う場合	60,000円より
供物(神饌)料	5,000円
玉串料 (5本まで無料)	200円/1本
お祓い用榊	600円

■ 法要施設使用料 (消費税込)

高尾院本堂 25席 (仏式のみ)	16,200円
礼拝堂 60席 (宗旨・宗派は問いません)	21,600円

※ご利用時間は30分です。(延長はご相談ください)

■ 塔婆料 (非課税)

供養(読経)依頼あり	3,000円/1本
供養(読経)依頼なし	4,000円/1本

※「お塔婆申込書」をご法要の10日前までに提出ください。お塔婆は法要当日にお渡しします。

■ 墓前飾り (消費税込)

飾り焼香台(香炉、鈴、線香)雨天の parasol 付	6,480円
parasol	3,240円
献花台	3,240円

■ 供花 (消費税込)

墓前供花 1対	3,000円 5,000円 7,000円~
特別供花 籠花	5,000円 8,000円 10,000円~
特別供花 スタンド花	10,000円 15,000円 20,000円~

■ 供物 (消費税込)

果物籠盛	3,000円 5,000円 8,000円
------	----------------------



● 会 席 室

- ◆お料理は「京王プラザホテル八王子」がご用意いたします ◆園内を一望できるお部屋で、四季折々のお料理をご賞味いただけます
- *ご利用時間は90分です(お部屋代は無料) *平日は10名様以上、土日祝日は少人数より承ります *料金は税・サービス料込みです



和風会席料理:お一人様 9,180円*



会席室(洋室)



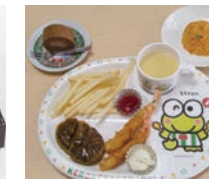
会席室(和室)



会席料理:お一人様 8,100円*



会席料理:お一人様 5,940円*



お子様用ハンバーグプレート
お一人様 1,730円*



引物:京王プラザホテル八王子のオリジナル洋菓子
(写真はファンシーカット 2,160円*)

ご法事のご予約は **TEL.042(661)6734** 霊園事務所まで

お知らせ

ホームページをリニューアルいたしました

当園の魅力をより多くの皆様を知っていただけるよう、また、スマートフォンやタブレットでもご覧いただけるよう、デザインと機能性を全面的にリニューアルいたしました。

今後より一層充実したホームページにしていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



お彼岸の特別売店

秋 平成28年9月17日(土)～22日(木)
春 平成29年3月17日(金)～20日(月)

春・秋のお彼岸には「のり巻き・いなり寿司」「おこわ」「きび餅」などを正門・東門休憩所にて販売いたします。

線香セットの使い方

1



線香セットには、線香二束、マッチが入っています。

2



線香に巻いてある紫の紙はそのままはがさず(はがすとバラバラになります)、マッチで先端の白い着火部分に火をつけます。

3



火がついたら線香を下に向け、火が先端の全体いきわたるようにします。火がいきわたったら、香立て・香炉に線香をお供えください。(紫の紙は燃えやすいので、そのまま線香と一緒に燃えつきます)

お願い

届出・変更手続きについて

次の場合は、速やかに霊園事務所にご連絡ください。

- 納骨または改葬される場合
- 墓所のご名義人が死亡または高齢その他の理由で名義変更(承継)の必要が生じた場合

- 墓所使用承諾証を紛失・破損した場合
- 住所(住居表示)、電話番号などに変更があった場合

* 承継にあたりましては、管理料を含め現在の墓所使用規則が適用されます。

管理料・各種代行サービス料

「口座自動引落とし制度のご案内」

管理料・各種代行サービス料を墓所名義人の預貯金口座から自動的に引落させていただく制度で、自身で銀行や郵便局へ出向く必要がないうえ、振込手数料の負担もなく便利です。ぜひご利用ください。なお、金融機関の合併や支店の統廃合により変更が生じた場合は、速やかに当園へご連絡をお願いします。

ご法事のお申し込みはお早めに

● 当園の法要施設・会席室のご予約は、ご法要日の6カ月前から承ります。

● ご予定が決まりましたらお早めにご連絡ください。

お墓参りのマナーをお守りください

● お墓にお供えしたお供物は必ずお持

園内での駐車について

● 巡回車の円滑な運行のため、お客様のお車は園内の十字路・T字路を避けて駐車くださるようご協力をお願いいたします。



凍結防止弁について

● 園内の水道の蛇口には「凍結防止弁」がついていて凍結しそうになると弁が開き、少量の水が落ち続けて凍結を防ぐ仕組みになっています。故障ではありません。ご承知おきのほどよろしくお願い申し上げます。

【墓所紹介制度のご案内】

ご使用者様の紹介により、お知り合い(ご親戚、ご友人等)が東京霊園墓所使用権を契約された場合、ご契約成立後ご紹介者様、ご契約者様双方に感謝の気持ちとして商品券2万円を進呈させていただきます。『墓所紹介制度』を導入いたしました。

ぜひお気軽にお問い合わせください。

タクシーのご利用について

■ご来園の際...

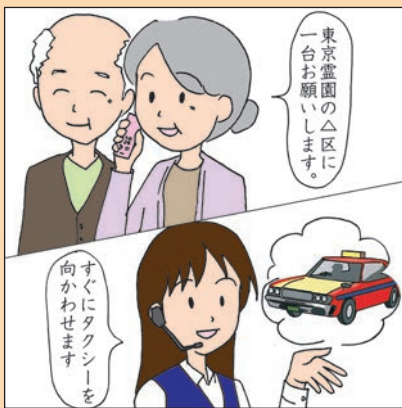
お客様が墓所近くまで乗り入れていただけます。

■お帰りの際...

事務所窓口でご用命いただければ、すぐにタクシーをお呼びいただけます。

また、墓前までのお迎えを園内から携帯電話で直接タクシー会社にご依頼いただけます。

● お客様が直接ご依頼される場合の例



◆当園周辺のタクシー会社

- 高鉄交通 ☎ 0120(61)7212
- 八王子交通 ☎ 042(623)5111
- 三和交通 ☎ 042(622)8181

交通のご案内

お車ご利用の場合

関越道・鶴ヶ島方面よりご来園の場合

日の出ICをご利用ください。

八王子西インターチェンジは、乗り降りできません。またあきる野インターチェンジは、渋滞する場合がありますので、日の出インターチェンジをお勧めします。圏央道日の出インターチェンジから約20～25分

中央道よりご来園の場合

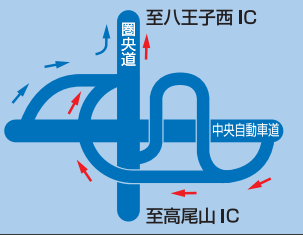
八王子西ICをご利用ください。

八王子西インターチェンジは、関越道・鶴ヶ島方面からの乗り降りにはできません。八王子JCT(ジャンクション)経由、圏央道八王子西インターチェンジから約5分

※関越道、鶴ヶ島方面からの八王子西スマートインターチェンジは、平成28年12月中的に開通予定です。

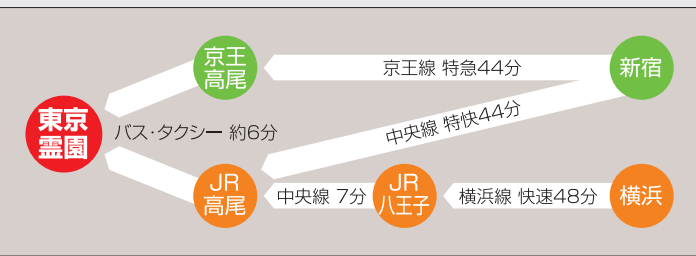
八王子JCT(ジャンクション)案内図

八王子JCT(ジャンクション)から圏央道に入る際、「関越道方面」と「東名方面」に分かれます。ご来園の際は「関越道方面」に進み、「八王子西IC」をご利用ください。



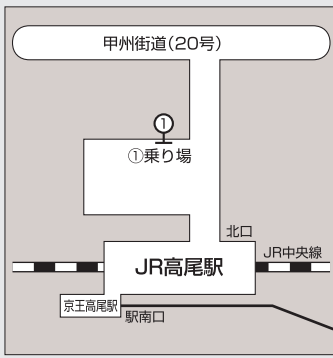
電車・バスご利用の場合

JR中央線・京王線 高尾駅 北口広場よりバスまたはタクシーにて約6分
*お彼岸の時期は、バス乗り場が変更になる場合があります。



バス乗り場のご案内

JR中央線・京王線「高尾駅北口」
①乗り場からバスに乗り、**「霊園正門」**バス停下車、東門からの入園は**「霊園前・八王子城跡入口」**下車(5～7分間隔)



平成29年 回忌表

一周忌	平成28年 2016年	没
三回忌	平成27年 2015年	没
七回忌	平成23年 2011年	没
十三回忌	平成17年 2005年	没
十七回忌	平成13年 2001年	没
二十三回忌	平成7年 1995年	没
二十七回忌	平成3年 1991年	没
三十三回忌	昭和60年 1985年	没
三十七回忌	昭和56年 1981年	没
五十回忌	昭和43年 1968年	没
百回忌	大正7年 1918年	没

お墓を大切に
●お墓に酒、飲み物などをかけると墓石の劣化の原因になります。墓石を金属製のタワシなど硬いもので清掃することも表面を傷つける原因になります。



古いお塔婆(ついで)
●お塔婆はご供養の当日にその役割を果たしてあります。ある程度お日にちが過ぎたお塔婆は、「塔婆納処」(写真参照)に下げることをお勧めします。園内の随所(合計17カ所)にごございますので、お客様の墓所のお近くの納処をご利用ください。

個人情報の取り扱い
平成17年4月に施行された「個人情報保護法」に基づき、東京霊園は「個人情報保護」の重要性を認識し、お客様からの「墓所使用申込書」・「墓所承継使用申請書」等書面により入手した個人情報「墓地、埋葬等に関する法律」に準拠して霊園管理に限り使用しています。

落し物にご注意ください
●園内での落し物は、6カ月間正門休憩所内の「落し物BOX」に保管しています。お心当たりの方は、霊園事務所にお問い合わせください。
なお、保管期間の過ぎた遺失物は処分させていただきますのでご了承ください。
●花立てが破損した場合は、お客様の担当石材店にご相談ください。

編集後記

今回は、職員が園内を隈なく歩き花木の場所と開花時期をマップにしましたので、墓参りにお越しの際には是非ご覧ください。
また、近隣紹介では、某大河ドラマには出ませんでした。が、小田原征伐の舞台となりました。北条氏康の三男北条氏照が築城した、日本100名城にも指定されている「八王子城跡」をご紹介しますので、墓参りに足をのばしてみたいかがでしょうか。
今後とも皆様にご満足頂けるサービスの提供を心掛けてまいりますので宜しくお願い申し上げます。
「東京霊園だより」ひだまり編集部

【永代供養墓のご案内】

「やすらぎの丘慰霊堂」は、心やすらぐ環境に恵まれた永遠の住み処として宗教・国籍を問わず、どなたでもご利用いただける永代供養墓です。

東京霊園が永代にわたりご供養します
契約により供養登録した方のご遺骨は、慰霊堂納骨室に安置し、東京霊園が責任を持って永代にわたりご供養いたします。
墓所ご使用者が契約される場合は、ご希望により墓前での供養を追加することができます。

お墓参り
供養登録者の芳名額が内庭壁面にあり、花立や香炉の備えもありますのでいつでもお参りすることができます。
合同慰霊祭
春・秋の年2回、故人とゆかりの深い方々にご参列いただき、献花による合同慰霊祭を営みます。



慰霊堂

お墓・ご供養にかかわるすべてのご相談を承ります

東京霊園

T O K Y O R E I E N

霊園事務所 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町 2-1623-1
TEL 042-661-6734 FAX 042-667-2120

東京事務所 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-1-14-3 階
TEL 03-5281-7010 FAX 03-5281-7020



●ホームページアドレス <https://www.tokyoreien.or.jp>

東京霊園は年中無休です

窓口・花売店 受付時間

通 常 (開門 8:00~17:00)

正門事務所 9:00~17:00

東門事務所 9:00~15:00

お彼岸・お盆 (開門 7:00~18:00)

正門事務所 8:00~18:00

東門事務所 8:00~16:00